

妻籠宿

町並み保存運動

明治になり鉄道や道路が木曾川沿いに造られ、宿場としての機能を失った妻籠宿は衰退の一途をたどり、やがて昭和四十年代になり集落保存と景観が修復され、妻籠宿の町並みが見直されました。

妻籠の人たちは町並みを守るために家や土地を「売らない・貸さない・こわさない」を中心とする住民意章をつくり、ここで生活しながら、江戸時代の町並みという貴重な財産を後世に伝えていきます。

寺下の町並み

日本で最初に宿場保存事業が行われた寺下地区は、妻籠宿保存の原点とも言うべき町並みです。

車両通行止め (災害)



10:00~16:00
車両進入禁止

凡例

宿	旅館・民宿	品	お土産・木工製品
味	味わい所	他	その他
	トイレ		バス停
	中山道		

延命地藏

文化10年(1813年)、光徳寺住職・中外和尚が、地藏尊像の浮かび上がりしている岩を蘭川(あららぎがわ)から運んできて安置したものです。

せきぶつ「かんざんじつとく」そう
石仏「寒山拾得」像

国内唯一とされる、石仏「寒山拾得」像。石に据られた双体像は他に類がない。

光徳寺 こうとくじ

石垣を築き、白壁をめぐらせた気品ある寺で、明応9年(1500年)に開山されたと言われています。

石仏寒山拾得像

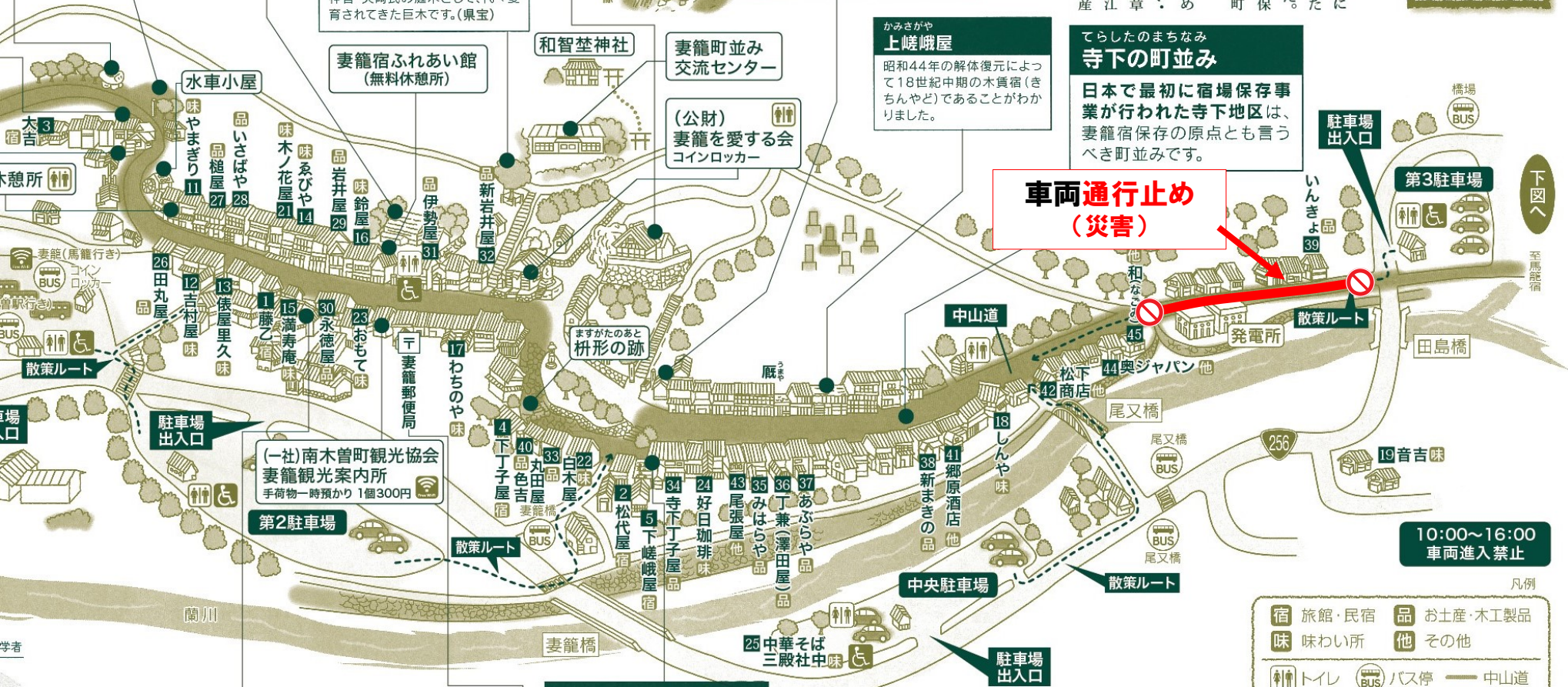
長野県天然記念物 ぎんもくせい

神官・矢崎氏の庭木として、代々愛育されてきた巨木です。(県宝)

つまごしゆくほんじん 妻籠宿本陣 (南木曾町博物館)

妻籠宿本陣には島崎氏が任命され、明治に至るまで本陣、庄屋を兼ね務めました。島崎藤村の母の生家で、次兄広助が養子にきています。平成7年4月に復元されました。

を刊「春」なつ到達した歴



わきほんしんおくや 脇本陣奥谷

代々脇本陣・問屋を務めた家で、現在の建物は明治10年に建て替えたものです。また、島崎藤村の初恋の人と言われる。

当時の建築の粋を感じませ。脇本陣奥谷内

下嵯峨屋 しもさかや

当初、長屋であったものです。妻籠宿における庶民の住居を代表する形式をとどめています。

石柱道標 せきちゆうどうひょう

妻籠は、中山道と飯田街道の分岐点として出た宿で、この碑は明治14

